

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハーモニー	評価実施年月日	平成19年12月1日
評価実施構成員氏名	須藤 寛之 小笠原 ゆう子 十和田 礼子 上坂 陽子 佐藤 桂子 奥 五穂子 三上 純子		
記録者氏名	須藤 寛之	記録年月日	11月2日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>独自の理念を作り、フロアに掲示 意識をもって入居者と接している</p>	○	フロアの隅に掲示していたが、フロア中央に掲示し、入居者、スタッフ、面会者にも目につきやすいようにした
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>その人らしい暮らしを支えるようプランにも位置づけ管理者、スタッフ一丸になり取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家族には月1回新聞発行し日々の暮らし等の報告や理念、行事等のについてもお知らせしている 地域の方にも、夏祭り等の大きな行事への参加を促し、施設の取り組み内容を理解してもらえるようにしている</p>	○	近隣住民に対する 介護等の悩み、相談会の開催をしたい
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>玄関前にテーブル、花壇等の設置を行い、雰囲気作りを行っているが、隣近所との付き合いはないように思われる ただ、隣接のお寺にお参り等の人たちとは、気軽に声かけがされている</p>	○	管理者、スタッフから 隣近所の人を見かけたら、先に挨拶を行うようにする
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域推進委員会の設置を行い、独自の取り組み内容を理解してもらっている 隣接のお寺の行事等の参加や施設独自のお祭りをを行い、地域の方にも参加を促している</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>施設の入居者の事でいっぱいになっている現状があり、地域の高齢者まで、頭が回らない状態である</p>	○	併設のデイとの連携を図り、地域に貢献していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価をする事により、気持ち的にも初心にもどれ、一つ一つより良い支援が出来るようになった 指摘事項の改善はスタッフ全員で取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>あまり機能していない</p>	○	会議を定期的に行う 会議内容を全スタッフへの報告
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進委員会には市町村は参加されてない(参加お願いしたが、事業所で対応しなさいとの事) 市町村との連携は一方通行である</p>	○	市町村との総理解を求めるよう働きかけを行う
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>施設内での研修を行っている 現在は当てはまる入居者はいない</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>施設内での研修を行っている</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居、退所の際 又家族面会の際 様々な場面で話しを聞き、安心できるよう支援している</p>	○	入居、退所等、面会の際等 管理者一人で対応せず、そのフロアリーダーを交え対応していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情については、重要事項説明書にも明記している 他、玄関前に苦情受付のボックスを置き対応 入居者には話しやすい環境を作る為、その人を担当する居室担当を位置づけている	○	居室担当はその入居者を一番に理解し分かり合えるようにする 一番身近で守ってあげられるのは居室担当である事を再認識させるよう管理者は対応する
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会はもとより、受診の際や状態変化の際、その都度報告している 月1回の新聞発行も行い報告している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情については、重要事項説明書にも明記している 他、玄関前に苦情受付のボックスを置き対応 他、家族等面会時に話しやすい環境を作り、苦情等の受付を行っている	○	家族の立場をしっかりと把握する ※置いてもらっている等では、苦情を言うと逆に追い出されてしまうのでは等をしっかりと考え 入居者、家族の気持ちになって支援していく
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する事は運営者のみである 下の物の意見は反映されてない	○	運営者、管理者、スタッフの総理解を図る 会議等を行い 運営について、運営者より話しを聞く
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状態変化や受診等に対応し 勤務調整を行っている その為、スタッフに負担がかかる現状あり	○	スタッフの配置について、運営者と相談し工夫が必要である
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	18年度は一人退職し新たに一人スタッフ採用した 入居者のダメージも想定し対応したのでいつもと変わらないよう暮らしをしている スタッフは環境の変化によりダメージを受ける事を理解している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間研修計画を立て、スタッフの経験や必要と認める場合 研修確保している 内部研修も単発的ではあるが行っている 季節における研修も行っている(6月は食中毒の予防、10月はインフルエンザ等)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修会等で同業者との交流あるが、少ないと思われる</p>	<p>○ 近隣施設と相談し見学会等を入れていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩時間を確保しているが、状況により休憩が出来ない時がある スタッフ間では話合いの時間づくり、お互いの悩みやストレスを話している</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修等により学ぶ機会を設け、向上心を作り出しているが、運営者は把握していないと思われる</p>	<p>○ 積極的に運営者も内情を把握してもらおうよう、スタッフ、管理者、運営者との連携を密にする</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前から不安や悩み等面談を行い対応している 入居されてからも、同様に会話の中でさりげない一言にも注意を払いその人が安心して暮らせるよう支援をしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前から不安や悩み等面談を行い対応している 入居されてからも気軽に話をできるよう雰囲気作りをしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談はケアマネージャーが行っていて、管理者、スタッフは把握できなかった	○	相談の際は柔軟な対応をとれるよう、一人でかかえるのではなく、各部門の連携が必要であるので意思疎通を図り対応する
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に家族と来て雰囲気を感じたり、少しづつ馴染むよう心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護される側、する側の線びきを引く事なく家族、家庭である事を常に頭に置き明るく接し信頼関係を欠く事ないよう努めている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の報告を行い、また行事の参加等によりスタッフ、家族みんなで支えあっている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者、家族の思いを理解しより良い関係作りに徹している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	在宅時、なじみの商店や美容室、近所付き合いを継続し、社会性を閉ざす事なく努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、共通の話題提供や場面作りを行っている 孤立されている方は見受けられない		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	状況は違うが、数名退所をされている 退所後も夏祭り等のイベントの写真や手紙のやり取りを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限りの希望等をかなえる様にしている 家族にも協力を得ている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、本人、家族より情報を収集し対応している 入居後も会話の中で情報収集を行い 馴染みの環境を継続できるよう支援して		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	定期的にあセスメントを行い無理のない過ごし方を支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、スタッフの意見を聞き、より良い方向へ行くよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の生活を把握し、状況の変化があれば、その都度アセスメントを行い、支援している		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録を行っている 申し送り等をしっかり行っている 情報の共有もされているので、スタッフがバラバラな対応を取る事はない		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接のデイで入浴したり、カラオケ等を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭り等のイベントではボランティアを入れたり、中学校の社会事業の受け入れをしている 保健所とは、感染症等の時期に情報を提供してもらっている	○	近所の交番へ施設の理解を求め、連携を図りたい 地域のボランティアが少ないので、理解と協力を得る働きかけを行いたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事例がない		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	事例がない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週往診に来てもらっている 馴染みの関係が出来ているので、気軽に相談等できる		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門の医師へ定期的に受診等を行っている 状態変化の際、すぐ行けるよう対応している		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員は確保されていないが、毎週往診に来てくれる看護師がいるので、健康管理に努めている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合、安心されるよう、ほぼ毎日面会へ行き、状況等確認し早期退院できるよう支援している		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の意思を尊重し、医師の協力を得ているが、スタッフが一丸とはならない場合があった	○	医療機関との更なる連携 スタッフの看取りについての意識改革が必要
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化は進んでいる かかりつけ医と連携を図って支援しているが、スタッフ内の不安はある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	退所(自宅)があった 其の際、情報提供を行い、介護の工夫等の話をしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	記録等は目の届かない所と思っているが、テーブル等に置かれている場面あり 声かけについては、その人その人にあった話し方の工夫がされている	○	記録等しつかり扱うよう配慮するようにする
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	以前は自己決定なされず、スタッフが決める事もみられた	○	プランに位置づけした
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	出来る限りの希望等をかなえる様にしているが、受診等でスタッフが手薄になり外出等出来ない時もある		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	なじみの美容室へ行ったり、近所の美容室の方が来てくれたりしている 日常着交換等でも声かけ行い、外出の際等は洋服選びもしている		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	個々に合わせ一緒に準備等している 食事はゆっくり落ち着いて食べれるよう、静かな音楽等流している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々に対応している タバコは居室で吸えないので、タバコの吸える場所を作り対応お茶の時間はコーヒー、お茶等 何が飲みたいか聞くようにしているが、スタッフが決める場合あり	○	個々に選べるようメニュー等作る
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に合わせ対応しているが、オムツの使用は減っていない		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	早朝、夜間の入浴はスタッフの人数が減るので対応出来ていない 入浴を楽しめるよう、時々、温泉にいったり、隣接のデイで入浴している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	季節に応じ寝具類の交換を行っている 昼寝をする方が多いので、昼食後はゆったりした音楽等を流している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る事、出来ない事を見極めて出来る事を伸ばすようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人、家族と話をし、数名が自分で管理している 買い物等も自分で出来るような配慮をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来る限り支援しているが、受診等でスタッフが手薄になる場合、希望に添えないときもある		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別レク等行っている 家族の協力もあり 家族と入居者での外出もある		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話できる体制をとっている また、手が不自由な方には代筆等も行っている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来れるよう環境整備を行っている スタッフは笑顔を忘れず対応している		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての内部研修を開き対応している	○	今後も定期的に研修等を入れる
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	カギをかけない工夫をしている センサーの設置等		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	しっかり様子観察を行い、歩行ふらつき等に注意をしている 日中の様子等の申し送りされ、歩行注意等職員間で話すので、見守りの強化につながる 転倒は減ってきている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人にあった対応されている 間違えそうな物には、分かるように記入したり 不安定なイス等もあったが、安定する物へ交換している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	歩行等に応じ、見守りや手引き等の支援を行っている センサーの活用もあり	○	事故対策委員会を設置した
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアル作成している また、定期的に消防署で行われる応急手当等の講習への参加もしている		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルはある ただ、スタッフ全員には浸透されていないと思われる 地域の方の協力も少ない	○	施設内研修を定期的に行い、地域の方にも理解と協力をお願いする
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	個々の状況について、起こりうるリスクについては、家族と話し合いを持っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の生活において、コミュニケーションを通し顔色、声のトーン、しぐさ等 いつもと違いがあれば その都度受診等の対応をしている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解できているスタッフもいれば、出来ていないスタッフもいる 薬については資料ファイル 個人の記録にはリスト掲載しわからなくてもすぐ調べられるようになっている		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘については理解できている 食物繊維の多い食事内容や水分の進め、運動等 また、排泄チェックを行い医師とも連携を図っている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に対応している 見守りや一部介助等		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に対応している 定期的にお茶の時間を設けたり、必要な方には医師の指示のもと栄養ドリンク等で対応 嚥下障害の方にはトロミ等形態を変え提供している		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成や流行の時期前には、スタッフに注意の促しを行っている 温度、湿度の管理も徹底している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫内の物は日付をつけている まな板等の消毒もされている 食中毒の事例はない		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	フロア入り口に花や飾りつけを行っている 独自の新聞やレクの写真等掲示している 外テラスには花壇やテーブル、イス等設置している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季の移り変わりを感じられる様、季節感あふれる飾りつけを行い 温かみのある雰囲気作りを行っている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆっくり過ごせるような空間作りをしている 3箇所にソファ設置している くつろぎのスペース確保している	○	タバコの部屋が事務用品もある為、少し家庭的な雰囲気ではないような感じがある為、整理が必要である
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持ち込んで、居心地良い環境になっているが、中にはそうではない方もいる		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度のチェックを定期的に行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な場所には手すりの設置を行っているが、まだ、必要とされている場所がある	○	脱衣所や浴室の一部に手すり必要と思われる為、手すり設置について検討していく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、台所等わかりやすいよう表示したり、大きな日めくり、天気や時計を設置し混乱等を防ぐようにしている 日めくりは入居者の日課の一部になっている		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム前にテントやテラスを設置している 夏は流しソーメンや焼肉等行ったり、隣接のお寺にお参りいったり、ホーム裏には花壇があり花や野菜等を育てている 冬にはイルミネーションを木に取り付けたりと四季折々に対応している		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者・・・できる限り 思いや希望をくむよう支援している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	②数日に1回程度ある・・・毎日ゆっくり過ごしたいと思うが、業務に追われる時がある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者・・・個々のペースで過ごせるよう支援している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	②利用者の2/3くらい・・・中には意欲低下が伺える方もいます
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②利用者の2/3くらい・・・個々の身体状況もあり、希望の場所へあまり行けない方もいます
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者・・・週1回の往診や定期受診等医療面は安心されている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者・・・個々の状況に対応し支援を行っている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族・・・面会時や電話にて相談事を受けたりし、信頼関係の構築に勤めている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている・・・委員会の開催が不定期であるが、イベント等の開催により、少しずつ理解がさえている</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>②職員の2/3くらいが・・・業務に追われている姿も伺える</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②利用者の2/3くらいが・・・まだまだ出来る支援があると思う より質の高いサービス提供を目指している</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②家族等の2/3くらいが・・・満足していると思うが、向上心があるので、さらに上を目指している</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)